

翻訳の技

野瀬 隆平

「伝えられるところによると、COVID-19 に対する完全なワクチン接種を受けたと見なされるために必要な2つのショットのうちの2つ目は、最初のショットよりも多くの症状を引き起こします。」

この文章、誰かが書いたものではない。英文の記事を Google 翻訳という AI が、日本語に変換したものである。少々、ぎこちない所があるものの、意味は通じる。

ちなみに、元の英文は次のようなものだ。

The second of the two shots you need in order to be considered fully vaccinated against COVID-19 reportedly causes more symptoms than the first.

日本語から英語への変換はどうだろうか。

「直接判断するのはパイロットと管制官かも知れないが、その背後に利害関係者がいることも事実である。あえて言うなれば、その人達は仮に何か事故が起きても、彼ら自身に危険が及ぶことはほとんど無い。」これは私が最近書いた文章だ。AI が翻訳した英文は、

It may be the pilot and controller who make the direct decision, but it is also true that there are stakeholders behind it. Suffice it to say, they are unlikely to endanger themselves if something goes wrong.

それでは文学的な表現の翻訳はどうか。川端康成の『雪国』の冒頭の部分で見てみよう。

「国境の長いトンネルを抜けると雪国だった。夜の底が白くなった。」アメリカ人であるサイデンステッカーによる英訳は、

The train came out of the long tunnel into the snow country.

The earth lay white under the night sky.

「自分がノーベル賞をとれたのも、半分は彼の翻訳のお蔭である」と川端自身に言わしめたほどの名訳とされている。一方、この翻訳ソフトはどう訳出したか。

After passing through the long tunnel, it was a snowy country.

The bottom of the night turned white.

作者の想いを伝えるには、英語による文学的な表現の方が良いようにも思える。しかし、そこには翻訳する者の解釈が加わっており、原作者の意図するところと必ずしも一致しているとは限らない。逐語訳をして、読む人の解釈にゆだねた方が良いのかも知れない。